

ホテル・旅館避難所 について ～令和2年7月豪雨～

熊本県 人吉市

令和2年7月豪雨の被害状況

～人吉市の概要～

熊本県の最南部の市。鹿児島県、宮崎県に接しており、九州山地の連山に囲まれた盆地に位置している。市の中央部を日本三大急流のひとつ球磨川が東西に貫流し、さらに南北から多くの支流が注ぎ込んでいる。

人口：31,152人（15,301世帯）R3.11末現在

※R2.7豪雨時（R2.6月末現在）31,932人（15,538世帯）

令和2年7月4日、記録的な大雨により球磨川や支流が氾濫し、市街地を含め広い範囲で浸水。

被害状況（令和2年12月2日現在）

○人的被害 21人

○家屋被害

全壊 902棟

半壊 1,451棟

一部損壊 304棟

床上浸水 263棟

床下浸水 151棟

○り災世帯・り災者 2,988世帯 6,127人

避難所の開設状況

- 指定避難所 最大 13 か所（同時開設）
- 福祉避難所 6 か所（うち5 か所避難者受け入れ）
- ホテル・旅館避難所** **4 か所**（熊本県の宿泊施設提供事業（*1） 2 か所含まない）

（※1）県宿泊施設提供事業...県と旅館組合が締結した協定に基づき、災害救助法の適用を受ける災害の発生により、県内の区域で被害が生じた場合において、要配慮者に対してホテルや旅館の宿泊施設の提供を行うもの。

- 避難者数 最大 1,263 人

被災者支援状況

- り災証明発行業務 申請：令和2年7月20日～
 発行：令和2年8月 1日～
- 被災者支援窓口（生活再建支援金・応急修理・応急住宅申込等）
 令和2年8月1日～
- 災害ボランティアセンター（社協） 開設：令和2年7月10日～

ホテル・旅館避難所について

【経緯】

市の中心部を流れる球磨川沿いに市街地があり、多くのホテル・旅館が被災した。被災者及び避難所の状況や、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、次のように対応した。

(1) 被災したホテル・旅館を避難所として活用するために応急修理する。

(宿泊施設として必要最低限な部分に限る。)

(2) 利用にあたっては、被災者(避難者)のみを受け入れる。

応急修理完了の施設から順に

【開設】 ・ 1か所 令和2年9月30日～

・ 3ヶ所 令和2年10月1日～

【閉設】 令和3年1月25日（令和3年1月以降は1か所に集約）

施設・対象者の絞り込み

○受け入れ可能施設の絞り込み（ホテルへ出向き説明・ヒアリングを実施）

令和2年7月中旬～ 被災した20か所のホテル・旅館を対象に

⇒ **4施設**について協力を得ることができた。

協力された理由：少しでも被災者の方の役に立ちたい等

断られた理由：従業員も被災しており、避難者を受け入れることは困難。

一般のお客さん（工事業者等）を受け入れる予定（すでに受け入れている）等

○受け入れ対象の絞り込み

まず下記の方を対象にすることとした。

・ **要配慮者**・・・**高齢者、障害者、学生がいる世帯**

※上記の方のうち、下記の3点を条件として加えた。

①現在、避難所に避難していること。

②年内に再建見込みであること。

③生活が自立していること。

ホテル・旅館への避難者の募集

○事前に被災者に行ったアンケート（*2）を活用し、あらかじめ対象世帯等の絞り込みを行った。

（*2）指定避難所に避難している方を対象に世帯の状況や再建方法の希望等をアンケートしたもの。

○まずは避難所にいる市職員から対象者へ声掛けを行った。

（申込開始）令和2年9月24日～

【課題①】

「是非入りたい」という方もいたが、この時点で災害から2か月近く経過しており、各避難所の中で、すでに「コミュニティの形成」ができていた。

特に一人暮らしの高齢者は、見知った顔があることで安心して生活ができるということもあり、声かけなどで勧めても「ホテルや旅館にはいきたくない。」という声もあったことから、対象者の範囲を拡大した。

災害発生から「ホテル、旅館避難所」の開設までタイムラグがあったことが影響した。

※なお、県の宿泊施設提供事業により、避難所として開設した2か所のホテルは、災害発生した7月から提供を開始している。

今後に向けた課題①

【課題①】

災害にも風水害、地震等様々で、今回の人吉市のように長期化する場合や、予防的避難で済んで、災害が起こらない可能性もある。

どのようなときにホテルや旅館を避難所にするか、いかに速やかに開設するかそれをどう避難者に伝達するか。



【考えられる解決策】

- ① 「市」と「ホテル・旅館」であらかじめ避難に関する協定を締結するとともに、災害時の具体的な対応手順を決めておく。
- ② 要配慮者を特定しておき、避難の際に、指定されたホテルや旅館へ避難するよう個別避難計画を整備する。（災害時避難行動要支援者対策）

今後に向けた課題②

災害救助法に該当しない場合、また、予防的避難で災害が起こらなかった場合は自治体の予算でまかなうことになるのか。

財政が厳しい中、全額自治体の負担となると、実施できる自治体は少ないのではないか。



被災者の方・経営者の方へ話を聞いて①

○ホテル・旅館を避難所にするうえで、被災者の方や経営者の方とお話する機会が多くあった。

【被災者の声】

- ・避難所生活が長く、疲労が溜まっていたので、利用できてうれしかった。
- ・子どもがいるので周りの目を気にしなくて良くなった。
- ・プライベートな空間が確保できた。
- ・食事が温かくてうれしかった。
- ・トイレやお風呂が近くなって気にしなくて良くなった。
- ・新型コロナウイルス感染症が拡大していて心配していた。
- ・子どもが小さいので周りの目を気にしなくてよくなった。
- ・階段しかないので少し不便。 ⇒バリアフリーの課題

被災者の方・経営者の方へ話を聞いて②

【経営者の声】

- ・被災者や、市に貢献出来てうれしかった。
- ・きっかけをもらったことで再建を後押ししてもらった。
- ・通常、人吉市民の方が泊まることはないので、知ってもらえてうれしかった。
- ・高齢者や持病を持っている方など心配な方がおり、見守りを行うなど対応に苦慮した。
- ・食事の面で、高齢者が多いので、硬いものを出さないようにするなど、工夫が必要だと感じた。
- ・新型コロナウイルス感染症が心配だったのでいろいろな対策を施した。

今後に向けた課題③

【課題③】

市職員については指定避難所での待機や、通常業務に加え災害関連の業務もあったことから、ホテル・避難所には派遣できず、運営は、全てホテル・旅館をお願いした。

「**経営者側への負担**」というものも大きいのではないか。



【考えられる解決策】

- ・自治体職員の派遣
- ・定期的な保健師等の巡回
- ・食事について栄養士の助言
- ・備品等の購入の補助
- ・被災者支援情報の提供

おわりに（経験で感じたこと）

当初の目的である「長期にわたる避難所生活を支援するとともに、新型コロナウイルス感染症対策における三密の回避や被災者のストレスの緩和を図る」という点では十分に達成された。

このような提案をいただいたことで、少しでも被災者の心が安らぎ、安心して避難生活を送られたことが何よりの成果であった。

ご清聴ありがとうございました。